

1. 未来へつなぐまちづくり～学校教育の充実について～
 - (1)土堂小学校におけるコミュニティスクールの成果と課題
尾道市における今後のコミュニティスクールの展開の方向性
 - (2)小中一貫校の開設、あるいは小学校と中学校の連携
2. 未来へつなぐまちづくり～家庭の教育力向上について～
 - (1)気づき・参加型のセミナーとファシリテーター養成のための方策
 - (2)公立小中学校における授業参観の日曜日開催
 - (3)体験学習による学びの機会の充実及びボランティア通帳の作成
3. 未来へつなぐまちづくり～協働のまちづくりについて～
 - (1)住まいのあるコミュニティにおける行政職員のリーダーシップ及び取り組み姿勢
4. 人をつなぐまちづくり～地域の教育力回復について～
 - (1)地域の教育力の回復につながる放課後子ども教室の設置
 - (2)放課後子ども教室におけるコーディネーター役の育成
 - (3)“個と公の調和”を見つめなおす公共心を学ぶ学習プログラムの提供
5. 人をつなぐまちづくり～社会起業家の育成について～
 - (1)社会サービスを民間に委ねるための社会起業家の育成
6. 人をつなぐまちづくり～生きがいのある暮らしづくりについて～
 - (1)ふれあいサロン活動に対する現在の支援状況並びに今後のサロン活動の展開
7. 地域をつなぐまちづくり～地域産業の活性化について～
 - (1)地域の教科書～小学校編～、～中学校編～、～成人編～の編纂
8. 地域をつなぐまちづくり～尾道港内の渡船航路再編について～
 - (1)三航路になった現在の状況及び尾道大橋無料化後の影響
9. 防災について
 - (1)避難所に指定している施設近隣の公衆電話設置状況
 - (2)避難される方の視点に立った公立小中学校への案内標示
 - (3)非常用電源などの燃料備蓄並びに避難所における備蓄状況
 - (4)尾道水道を渡っている水道管のリスク管理
 - (5)長時間に亘り停電になった場合の島嶼部への給水バックアップ
 - (6)通信手段が絶たれた場合の本庁と支所との情報伝達及び本庁の非常用電源のバックアップ体制

日々の活動をブログで紹介しています。
携帯電話のインターネットからもご覧いただけますので、是非、どうぞ!!!
<http://blog.k-kakimoto.com/>



【柿本和彦後援会】

〒722-0062 尾道市向東町3301-1
Tel・Fax兼用 (0848) 41-9315 Fax (0848) 44-6829
メールアドレス: info@k-kakimoto.com
ホームページURL: <http://k-kakimoto.com/>
ブログURL: <http://blog.k-kakimoto.com/>
ご意見等がございましたら、お気軽にお寄せください!



愛と志で誇りある未来を創造しよう!

かきもとかずひこ

柿本和彦後援会 会報 VOL.03

編集：柿本和彦後援会 平成24年 1月 8日発行

新年明けまして おめでとうございます

後援会が発足し、早や一年が経過しました。

この間、さまざまな出来事がありましたが、
後援会にとって、最大の出来事は柿本和彦の尾道市議会議員選挙当選です。
当選後は、市議会会派入り、6月定例会初登壇、など、
新人議員として、さまざまな経験を積ませていただいています。

本号では、柿本和彦の一年を振り返り、今後の活動に生かして参りたいと思います。

昭和から平成へのパラダイムシフト!

昭和の考え方から平成の考え方に、いかにしてパラダイムシフトをしていくか?
これからの時代を豊かに、逞しく生きていく上で、最も大切なことのように感じています。

平成の時代になり23年が経過しましたが、
私たちの価値観は、まだまだ昭和の価値観に囚われています。
①情報通信技術の進展 ②中央集権から地域主権 ③人口減少(少子高齢化)
こうした流れにより、社会は大きく変わっています。
正確に言うと、変わらなければならない状況になっています。
私たちは、昭和の時代とは全く環境の違った時代に、
生かされているということを認識しなければなりません。

今はインターネットにより、誰もが世界の情報を手に入れられるようになりました。
逆に言えば、誰でも世界に情報を発信できるようになってきたのです。
また、物が無い時代から、物があふれ量よりも質を重視する時代になりました。
社会資本の整備が進み、全国一律ではなく目の前の地域を大切に作る仕組みが求められる
地域主権の時代が必要になってきたのです。

国も生き物と一緒にですから、成長のサイクルがあります。
物をどんどん食べて大きくなっていった成長期の昭和から、
成長が止まり、必要なだけの栄養を取りながら、いかに健康を維持していくか?を考える
いわゆる成熟期の平成になってきたのです。
日本の人口は、江戸時代後期から一時的な現象を除き減少したことはありません。
即ち、私たちは誰も人口減少の社会というものを経験していないのです。
もっと、人口減少がどのような社会現象を起こすのか?を真剣に考え、
行動しなければなりません。

今、私たちには、昭和から平成への“ものさしの転換”が求められているのです。

2011 (平成23) 年 柿本和彦の主な出来事

平成23年は、大きなターニングポイントになった一年でした。

『柿本和彦の3大ニュース』

①宮城県塩釜市で東日本大震災に遭遇 ②尾道市議会議員選挙で当選 ③第9回おのみち100km徒歩の旅で9回目の団長を務める座右の銘の ～出会い、感動、感謝～ を体現する一年となりました。

1月

- ◆尾道カルチャークラブ例会で講演『おのみち100km徒歩の旅～目指すもの、そこから見えるもの～』
- ◆尾道市立高須小学校PTAで講演『おのみち100km徒歩の旅を通じての人間力と生きる力』

2月

- ◆向東公民館きらめき講座で講演『たくましい子どもを育てよう』
- ◆五十鈴川（伊勢市）での水行に参加
- ◆尾道市立向東小学校でゲストティーチャーとして租税教室を実施
- ◆柿本和彦後援会事務所開き

3月

- ◆全国100km徒歩の旅推進協議会で団長研修を実施（宮城県塩釜市）
- ◆東日本大震災に被災し、大津波から避難
- ◆塩釜市、多賀城市で避難所生活

4月

- ◆尾道市議会議員選挙で当選
- ◆尾道市選挙管理委員会で当選証書授与式
- ◆中国新聞社で新人議員座談会に出席『ちゅうごく未来塾→2020』

5月

- ◆尾道市議会新人議員研修会
- ◆尾道市議会初会同
- ◆第3回尾道市議会臨時会
- ◆第9回おのみち100km徒歩の旅リーダー養成でセミナーコーチ（～9月）



当選証書授与式



尾道市議会初登壇



第9回おのみち100km結団式



地震に遭った研修会場（右側）と津波を見た避難場所（中央奥）



泥出しのボランティアを行った石巻市南部の風景（日和山より）



山積みにされた瓦礫（中央）



写真整理のボランティアを行った気仙沼市唐桑体育館の拾得物【注】



JR気仙沼線の最知駅付近（移動中の車窓より）

【注】体育館内は写真撮影が禁止されていましたが、館内の様子などは撮影して、多くの人に情報を発信して欲しいということでしたので、掲載させていただきました。

6月

- ◆第4回尾道市議会定例会
- ◆第4回尾道市議会定例会で一般質問（初登壇）

7月

- ◆第9回おのみち100km徒歩の旅保護者研修会で研修講師
- ◆尾道市議会議会運営委員会で行政視察

8月

- ◆第9回おのみち100km徒歩の旅で9回目の団長

9月

- ◆第5回尾道市議会定例会

10月

- ◆第6回尾道市議会臨時会
- ◆尾道市議会会派研修視察
- ◆尾道市議会決算特別委員会
- ◆尾道市議会総務委員会で行政視察

11月

- ◆広島県東部ブロック市議会研修会
- ◆文部科学省コミュニティスクール研修会
- ◆尾道市・今治市議会合同研修会

12月

- ◆第7回尾道市議会定例会
- ◆九州・四国・中国生涯学習実践研究交流会
- ◆宮城県気仙沼市、石巻市でボランティア